

## 演習問題略解

### 第 1 章 流体力学の基礎方程式

[演習 1.1] 図 1.2 の記号を用いて,  $2\delta S \mathbf{n} = \overrightarrow{P_1 P_2} \times \overrightarrow{P_1 P_3} = (\overrightarrow{OP_2} - \overrightarrow{OP_1}) \times (\overrightarrow{OP_3} - \overrightarrow{OP_1}) = 2\delta S_1 \mathbf{e}_1 + 2\delta S_2 \mathbf{e}_2 + 2\delta S_3 \mathbf{e}_3$  これと  $\mathbf{e}_i$  との内積をとればよい.

[演習 1.2] 直断面積  $\delta S$  の鉛直な水柱を考えて, それを水表面と深さ  $h$  のところで切った柱状体の力の釣り合いから  $p = p_0 + \rho gh$ .

[演習 1.3] 点 P を通る曲面上の任意の曲線  $C$  を  $\mathbf{r} = \mathbf{r}(t)$  とすれば,  $F(\mathbf{r}(t)) = \text{一定}$  を満たす. これをパラメータ  $t$  で微分すれば,  $\nabla F \cdot d\mathbf{r}/dt = 0$ .  $d\mathbf{r}/dt$  は点 P における  $C$  の接ベクトルだから,  $\nabla F$  は法線ベクトルである.

[演習 1.4] 省略.

[演習 1.5] 定常流では連続の方程式は  $\nabla \cdot (\rho \mathbf{u}) = 0$  となる. これを図 1.9 の流管の断面  $S, S'$  と側面で囲まれた領域で積分し, これをガウスの定理で面積分に変える. そのとき, 側面での積分は  $\mathbf{u} \cdot \mathbf{n} = 0$  なので積分に寄与しないから,  $\iint_S \rho \mathbf{u} \cdot \mathbf{n} dS = \iint_{S'} \rho \mathbf{u} \cdot \mathbf{n} dS$ .

[演習 1.6] 流体が物体に及ぼす力は, 物体の表面を  $S$ , それで囲まれる領域を  $V$  とすれば,  $\mathbf{F} = -\iint_S p \mathbf{n} dS = -\iiint_V \nabla p dV$  である.  $\mathbf{K} = \mathbf{g}$  であるから,  $\mathbf{F} = -\iiint_V \rho \mathbf{g} dV = -\rho \mathbf{g} V$ .

[演習 1.7] 省略.

### 第 2 章 完全流体の力学

[演習 2.1]  $(\mathbf{u} \cdot \nabla) \mathbf{u} = -\mathbf{u} \times \boldsymbol{\omega} + \nabla(q^2/2)$  によって (2.1) が得られる. 次に (2.3) の右辺を変形すると,  $\nabla \times (\mathbf{u} \times \boldsymbol{\omega}) = u_i \partial_j \omega_j + \omega_j \partial_j u_i - \omega_i \partial_j u_j - u_j \partial_j \omega_i$ . ここで,  $\partial_j \omega_j = \nabla \cdot (\nabla \times \mathbf{u}) = 0$  であり, また  $\partial_j u_j$  は連続の式より  $\partial_j u_j = -(1/\rho)(D\rho/Dt)$ . これらを (2.3) に代入して整理すると, (2.4) が得られる.

[演習 2.2] 水面上では  $p = p_0$  であり, 流速は 0 と見なせるので,  $p + \rho q^2/2 + \rho gz = p_0 + \rho gh$ . 穴の位置では,  $z = 0, p = p_0$  であるから,  $q = \sqrt{2gh}$  となる.

[演習 2.3] 水面の高さが  $z$  の時の流速を  $v$  とすると,  $v = \sqrt{2gz}$ . 面積  $a$  の小さな孔から  $dt$  秒間に出る流量を  $dQ$  とすると, 流量の保存から  $dQ = av dt = -Adz$ . したがって

$$dt = -\frac{A}{a} \frac{dz}{v} = -\frac{A}{a\sqrt{2g}} \frac{dz}{\sqrt{z}}.$$

1) は,  $z: H \rightarrow H/2$ , 2) は,  $z: H \rightarrow 0$  として積分すれば計算できる.

[演習 2.4]  $\partial\Phi/\partial x = 0$  に  $r = a, x = -a$  を代入すると,  $a = \sqrt{m/U}$  を得る. また無限下流での流量がわき出し量に等しいことから  $4\pi m = U\pi b^2$ . よって  $b = 2\sqrt{m/U} = 2a$ .

[演習 2.5] 速度ポテンシャルは,